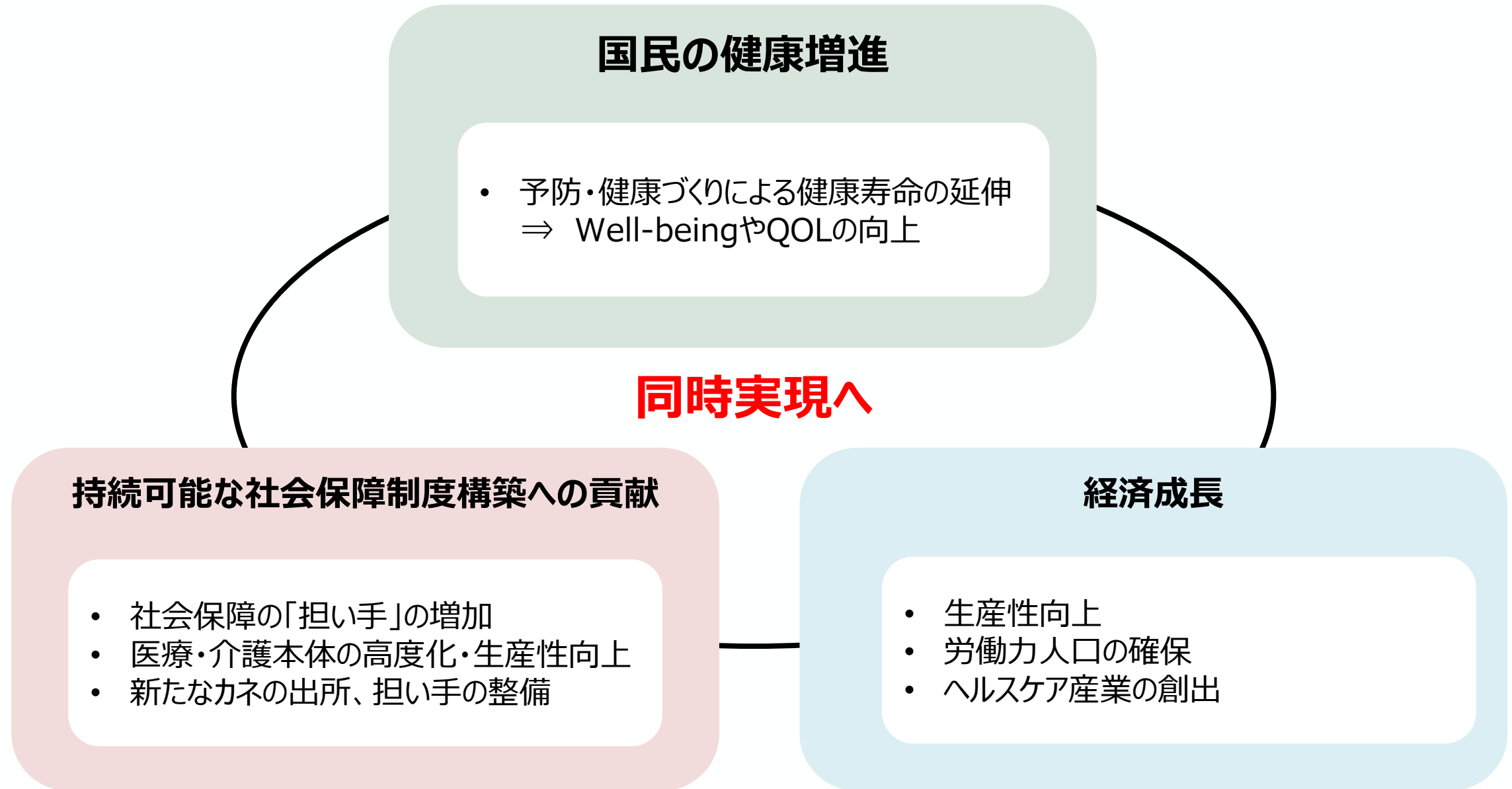


ヘルスケア産業政策を通じた イノベーションの創出について

経済産業省商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課

ヘルスケア産業政策の目指す姿



ヘルスケア政策の 6つの柱



健康経営の推進



PHR (パーソナルヘルスレコード) を活用した
新たなサービス創出



**質の高いヘルスケアサービスの
創出・振興**



介護・認知症等の地域課題への対応



ヘルスケアスタートアップ支援



医療・介護・ヘルスケアの国際展開

□ 質の高いヘルスケアサービスの創出・振興

ヘルスケアサービス提供事業者の声

- ヘルスケア分野では、エビデンスを創出することが、事業リスクの低減にもつながる。**医療従事者が納得できるエビデンスレベルを確保したい。**
- 一方で、エビデンスを創出するためには、10年単位の時間を要する場合もあり、探索的に取り組むには**企業体力が保たない。**エビデンス創出に係る**予見性を高めるためにも、評価基準がほしい。**



事業者A
(運動領域)



事業者B

(フェムテック領域)

- 特に、10代女性（若年層）のヘルスケアの**購入の意思決定**は、友人の勧め、口コミや広告の力だけで購入しており、正確な情報やエビデンスに基づかない場合も多く、**健康被害がおきないか心配**である。
- 事業から得られるデータ等を基に、**エビデンス創出の主体として学会から頼られる存在になりたい。**

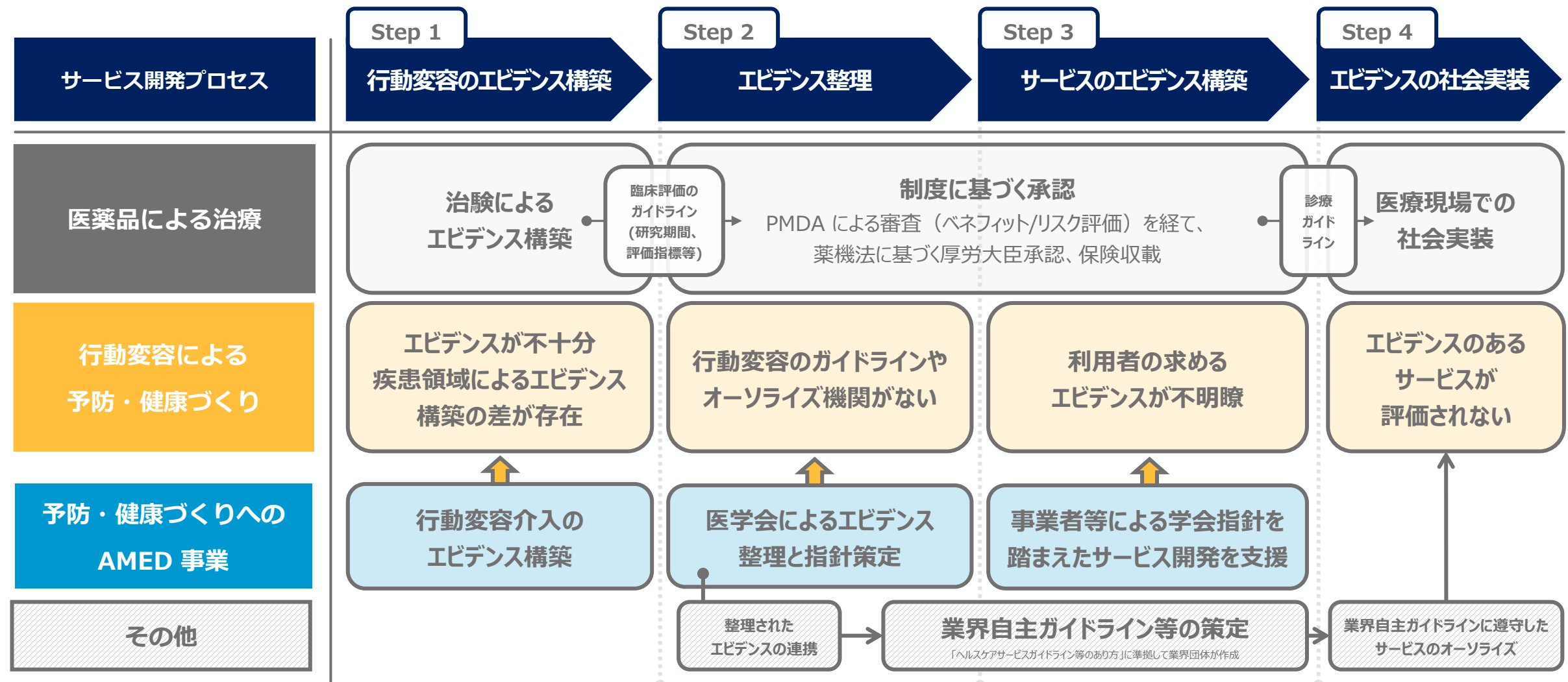
- エビデンスに基づくサービス一覧表のようなものがあると、差異化できて、エビデンスを取り続ける意義を**投資家等に説明しやすい。**



事業者C（スタートアップ、
心の健康保持・増進領域）

予防・健康づくり分野におけるエビデンス

- 行動変容による予防・健康づくりは民間主導でエビデンス構築が進みにくいことやオーソライズの仕組みが制度化されていないことから、科学的有用性が担保されたサービスの社会実装が円滑に進んでいないという課題がある。



予防・健康づくりに関する医学会による指針の策定

指針公開	領域	採択事業
令和6年度 (2024年度)	成人・中年期の課題	●福岡大学 有馬班（高血圧学会が中心） → デジタル技術を活用した血圧管理 ●順天堂大学 綿田班（糖尿病学会、体力医学会が中心） → 2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスケアサービス ●大阪大学 猪阪班（腎臓学会が中心） → 慢性腎臓病の発症・進展に関するヘルスケアサービスやデジタル技術介入
	老年期の課題	●長寿研 荒井班（老年医学会、サルコペニア・フレイル学会が中心） → サルコペニア・フレイルの予防に関するヘルスケアサービス ●高知大学 数井班（認知症関連6学会） → 認知症発症リスク及び症状低減のための非薬物療法
	職域の課題	●産業医科大学 榎原班（産業衛生学会が中心） → メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入 ●秋田大 野村班（産業衛生学会が中心） → 働く女性の健康に関する非薬物的介入
令和7年度 (2025年度)	働く世代における二次・三次予防	●東京慈恵医科大学 吉田班（動脈硬化学会が中心） 脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービス ●東京医科歯科大学 寺内班（日本女性医学学会が中心） 働く女性における月経困難症・月経前症候群・更年期障害の二次予防・三次予防 ●聖路加国際大学 水野班（循環器学会が中心） 循環器疾患におけるヘルスケアサービス

指針の概要

指針の作成プロセス

ヘルスケアクエスチョン（HQ）の設定

HQ：予防・健康づくりの分野で回答を出すべきだと考えられる課題
例「〇〇のアプローチは□□の予防や改善に有用か？」

システマティックレビュー（エビデンスの量と質の集積度合いを分析）

各HQに関連する研究論文を系統的かつ網羅的に検索・収集・統合

推奨案作成・投票、推奨グレード決定

推奨の解釈	推奨グレード	エビデンス	解釈
	1. 行うことを強く推奨する	強固なレベル	医学会として
	2. 行うことを提案する	一定のレベル	取り組むことを推奨
	3. 行わないことを提案する	-	予防・健康づくりでは
	4. 行わないことを強く推奨する	-	ほとんどない
	5. エビデンス不十分のため推奨を保留	今後に期待	FRQ* を提示

パブリックコメント（意見公募）

指針の完成、公開・維持更新

FRQ（Future Research Question）の例

【高血圧】

さまざまなウェアラブルデバイスを装着し、ヘルスケアプロバイダーからフィードバックを受ける介入は、成人の血圧に有益な効果をもたらすか？
→ ウェアラブルデバイス装着にフィードバックやゲーミフィケーションなどの要素を取り入れたアプリを併用するような、間接的な介入の効果についても新たなエビデンス構築が求められている。

【糖尿病】

デジタル技術によるヘルスケアサービスは、ウエストや血圧や脂質など、他の動脈硬化のリスク因子を改善させるのか？
→ デジタル技術によるヘルスケアサービスは、ウエスト周囲長の減少が認められたが、血圧や脂質代謝の改善効果は一貫しておらず、新たなデジタル技術によるエビデンス構築が求められている。

【メンタルヘルス】

B to B to Cスタイルに応じたサービス及び製品開発の必要性
→ 実際の使用状況や動向を定期的に把握した上で、サービス・製品開発や行政施策に活かすことが必要である。

Future Research Question は現状で不足しているエビデンスを明確化するものであり、将来的に新たなサービスの開発につながる可能性がある。

* FRQ：エビデンスが十分でない場合、学会として今後エビデンス構築が必要だと考える課題を Future Research Question (FRQ) として提示する。

FRQに対応した更なるエビデンスの構築

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケア社会実装基盤整備事業）」

- これまで医学会にて策定してきた指針に基づき、さらに解決すべき課題（FRQ: future research question）に注目し、特にデジタル技術を活用した行動変容介入のエビデンス構築を目指す（実施期間：令和 7 ～ 9 年度）。

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
成人期の課題	2型糖尿病高リスク者を対象とした持続血糖モニタリング機能とAIを活用した2型糖尿病発症予防アプリシステムの有効性検証とエビデンス構築	曽根 博仁	国立大学法人新潟大学
	慢性腎臓病発症・進展予防に向けたデジタル行動変容エビデンス創出プラットフォームの開発	福間 真悟	国立大学法人広島大学
老年期の課題	プレフレイル・フレイル者のウェアラブルデバイス利用による行動変容と健康アウトカムへの改善効果の検証—無作為化比較対照試験	大淵 修一	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）
職域の課題	職域における認知行動変容アプローチの検証と実装：AIを活用したデジタルメンタルヘルス支援システム（KOKOROBO）のランダム化比較試験と普及モデルの構築	久我 弘典	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
	働く女性の更年期の不眠症状緩和を目的としたデジタル技術の社会実装に向けた研究	野村 恭子	国立大学法人秋田大学

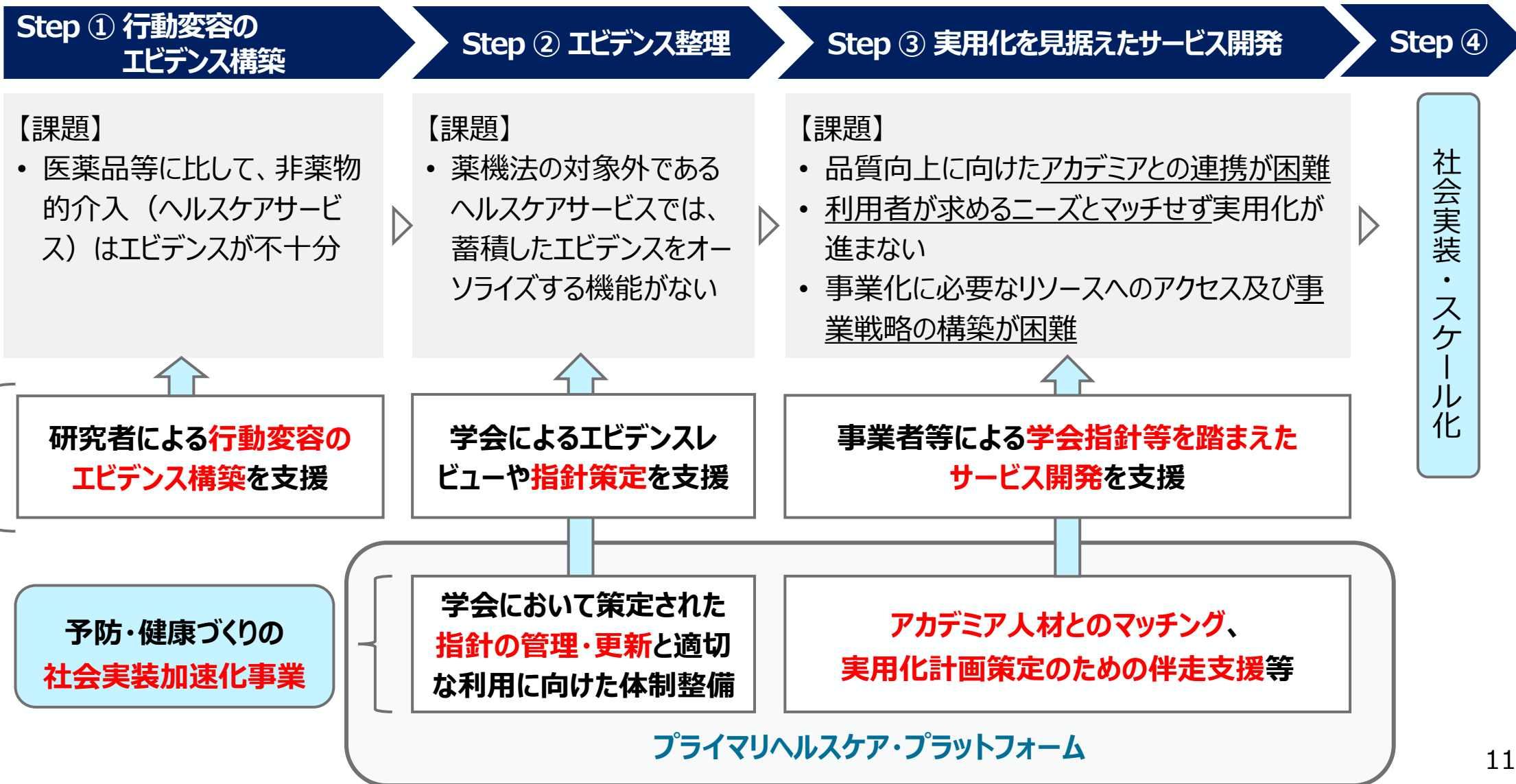
科学的エビデンスを踏まえたサービス実用化の推進

「予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業（ヘルスケアサービス実用化研究事業）」

- 予防・健康づくりの社会実装に向けて、エビデンスを備えたヘルスケアサービスのモデルケース創出を目指す。（実施期間：令和 7 ～ 9 年度）

領域	研究開発課題名	代表者	所属機関
成人期の課題	保健指導DXによる生活習慣病予防の高度化・実用化に関する研究 開発	野尻 哲也	株式会社おいしい健康
職域の課題	子育て認知行動療法によるASDリスク児への早期予防介入の研究開発	太田 英伸	秋田大学
	ウェアラブルデバイスのデータからメンタルヘルス不調を防ぐための個人にとって最適な行動変容提案技術の開発	岸本 泰士郎	慶應義塾大学
	患者一人ひとりに最適な外来がん薬物療法の実現：PHRを用いた 個別化モニタリング・フォローアップサービスの研究開発	竹部 亨	株式会社カケハシ
	大規模臨床試験でエビデンスを確立したスマートフォン認知行動療法アプリをスケールアップし国民のレジリエンスを向上させるサービスの社会実装開発研究（TASSO研究）	古川 壽亮	京都大学
	スマートリングを用いた睡眠への個人適合化介入による労働生産性向上効果の実証研究	渡邊 達彦	株式会社SOXAI

AMEDを通じた研究開発事業の全体像



予防・健康づくりの社会実装に向けた**研究開発基盤整備事業**

事業紹介・成果物公開ウェブサイト

E-LIFEヘルスケアナビ：AMED 事業の成果物を公開



指針（R7年度末にはさらに追加）



高血圧 / 糖尿病 / 慢性腎臓病 / 認知症



サルコペニア・フレイル / メンタルヘルス / 女性の健康

予防・健康の研究手法ガイドやチェックリスト



多面的価値評価 / 評価指標 / 研究デザイン



E-LIFEヘルスケアナビ

1. 指針の読み方解説
2. 指針提供と各指針の解説動画・HQ検索
3. エビデンス構築・評価の参考となる手法紹介
4. 指針勉強会の募集とイベントレポート
5. ヘルスケア意向調査
6. 指針活用事例を今後紹介
7. 指針に関する問い合わせ



日本における心の健康の現状

心の健康・不調に関する統計

- ✓ 精神疾患を有する総患者数は

489万人 (約25人に1人)

出典：令和5年度患者調査（厚生労働省）

- ✓ 日本における精神疾患の生涯有病率は

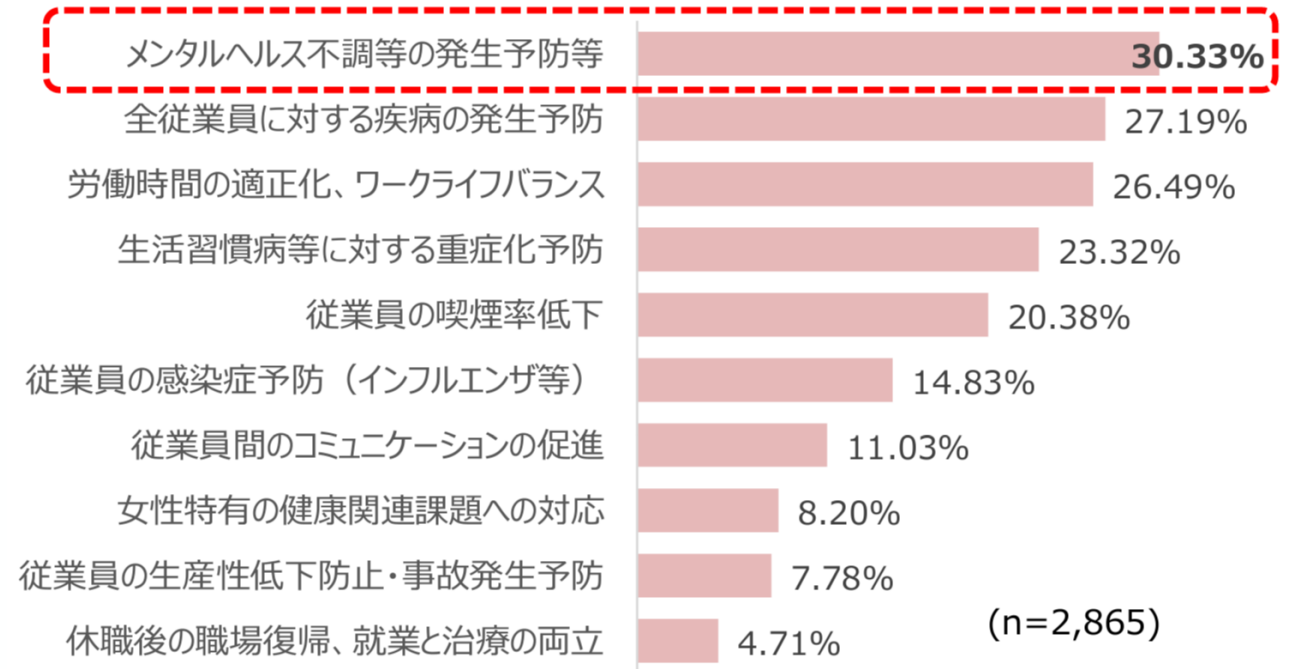
22.9% (約4人に1人)

出典：精神疾患の有病率等に関する大規模疫学調査研究, 2014

- ✓ 仕事や職業生活で強い不安、悩み、ストレスを感じる人は

68.3% (約3人に2人)

出典：令和6年度労働安全衛生調査（実態調査）（厚生労働省）



令和4年度調査票Q72.SQ1.「施策内容および結果、施策の効果検証結果等を具体的にお答えください。」の課題のテーマ

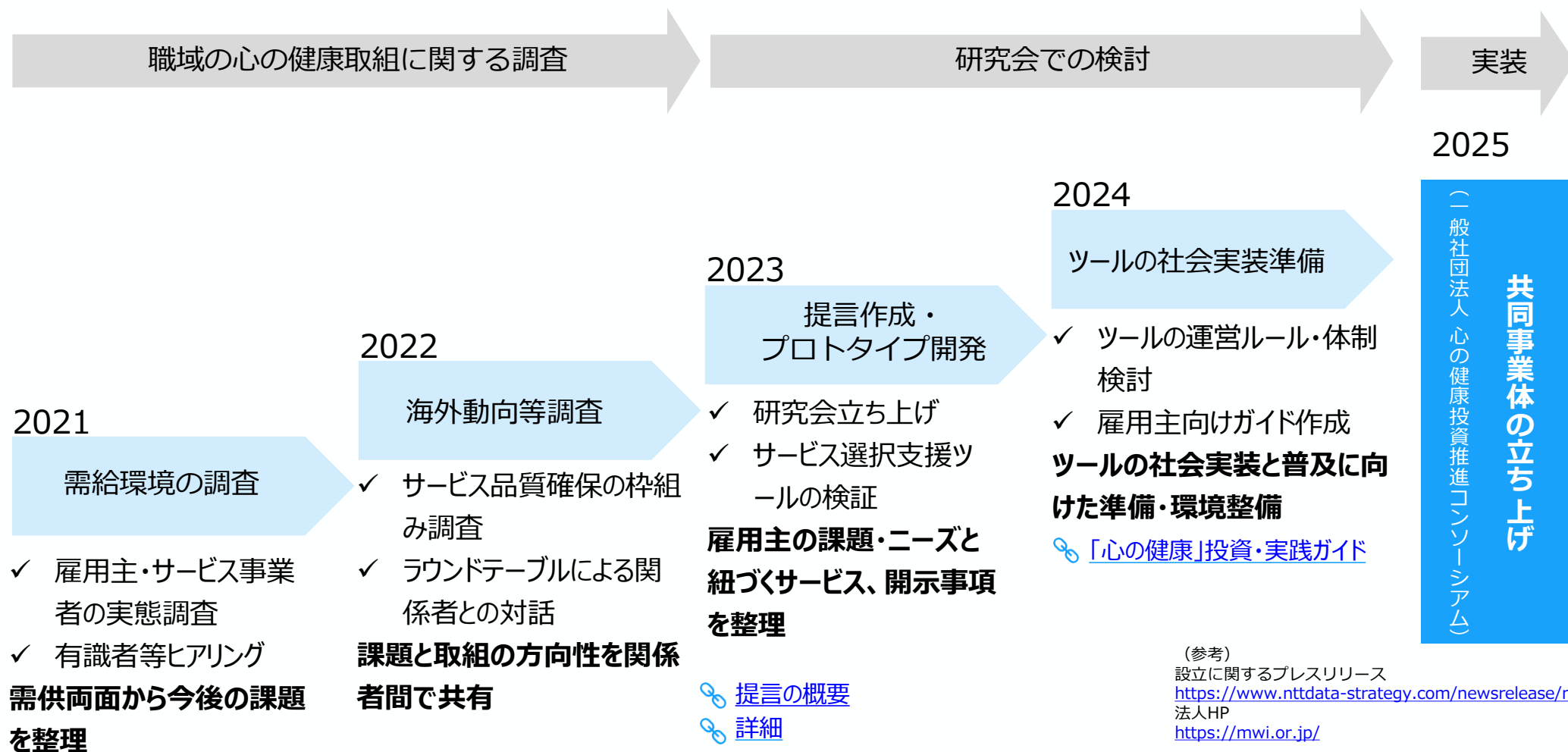
第8回健康投資WG
(令和5年3月16日)
事務局説明資料 一部改変

心の不調は、診断の有無に関わらず、
誰にでも起こる身近なもの

健康経営を推進する上で、メンタルヘルス
関連を課題テーマとして選択する企業が多い

一般社団法人 心の健康投資推進コンソーシアムの設立

- 経済産業省では、2021年度から心の健康投資に関する調査を実施し、2023年度には「職域における心の健康関連サービス活用に向けた研究会」を立ち上げ。その後、選択支援ツール（ウェルココ）の社会実装の体制を含む共同事業体の立ち上げを支援。



ウェルココ™～職域向け心の健康サービス選択支援ツール～



ウェルココ™
職域向け心の健康サービス
選択支援ツール

- 健康経営を実践する企業や保険者等が自社のニーズ・課題に応じて心の健康サービスを選択するための支援ツール。
- 雇用主による心の健康投資の普及拡大を目的とするため、産官学の共同事業体が公益的な活動として運営をする。
- ウェルココは2025年10月に公開予定。オープニングイベントとして、10月10日に「心の健康投資シンポジウム2025」を開催。 <https://mwi.or.jp/news/509/>

ウェルココの特徴

- ✓ **「心の健康」投資の普及を目指して運営**
産官学で検討した共通の開示項目でサービスの情報が開示されている。
- ✓ **「期待効果」の根拠を提示できるサービスのみを掲載**
サービス導入企業の評価、理論的裏付け、実証評価の結果などの根拠があるサービスのみを掲載。
- ✓ **自社のニーズ・課題にあったサービスを探せる**
サービスを探したり選んだりする観点が変わり検索できる。

※ ウェルココはサービス提供事業者が情報開示をするプラットフォームであり、サービス自体の質を担保するものではない。

・ ウェルココ運営の共同事業体やウェルココ掲載ガイド等の説明資料は、こちらのページ下部「会員募集要項はこちら」に掲載：[人・組織の課題を解決する「心の健康」投資拡大に向け、共同事業体を設立します（株式会社NTTデータ経営研究所, 2025.06.05）](#)

ウェルココでできることの例（雇用主向け）

1 取組ステージから活用できるソリューションを探せる

知識・経験がない担当者から、すでに実践している担当者まで使えるよう、「心の健康」取組ステージを4段階に分け、段階ごとにおすすめソリューションをガイド。

気になっているソリューションがある人は、サービスカテゴリから探すこともできる。

2 サービスの「期待される効果」や特徴を一覧表示できる

期待される効果の根拠がわかる
「○：導入企業の評価」
「●：理論的裏付け」
「◎：実証評価」

「期待される効果」以外にもサービスの特徴を示す様々な指標を一覧化できる。

3 サービス提供事業者にお問い合わせできる

ウェルココ上で問い合わせることも可能。

先端技術活用メンタルヘルスサービス開発支援事業

(令和6年度補正予算事業)

- デジタルメンタルヘルスサービス（DMH※1）の開発支援と、中小企業等での導入補助を実施することで、健康経営に取り組む企業における心の健康の増進をはじめ、様々な場面でのDMHの社会実装を促進していく。

※1：AI技術や情報通信技術、デジタル技術を用いた一般労働者に提供される予防やエンゲイジメント向上を目的としたヘルスケアサービス。

背景・課題感



サービス提供事業者

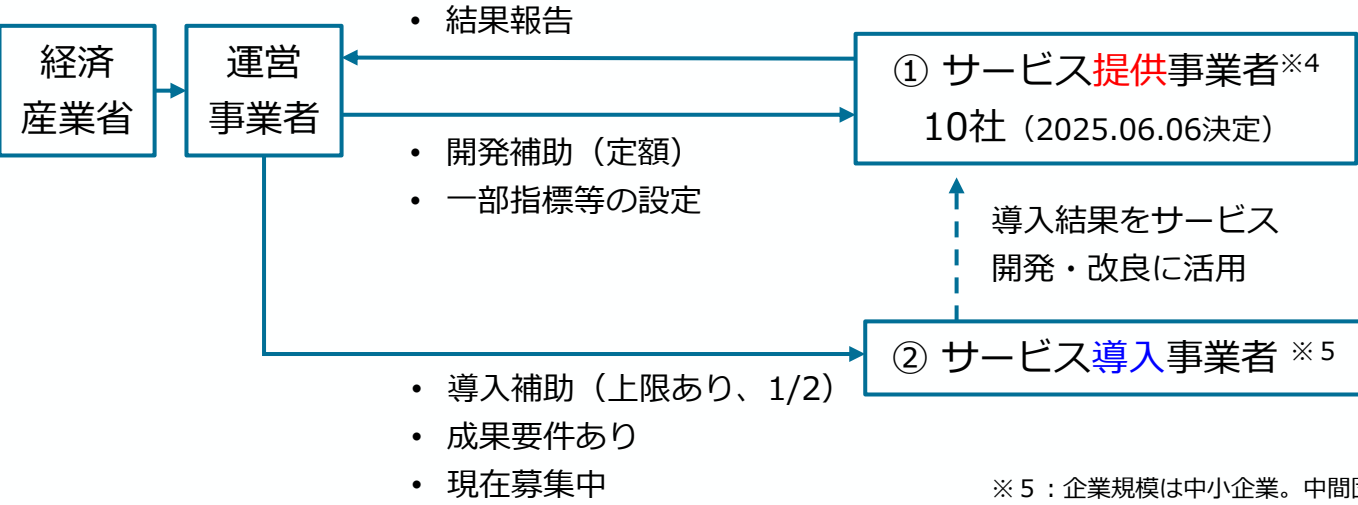
- AIや情報技術の発展により、人では難しい対応ができる新たなサービスが創出されている。
- 予防やエンゲイジメント向上に効果があることは実証されているが、実装には少し遠い。

- 一番の課題はメンタルヘルス※2。内製では難しいので、外部サービスの活用も必要。
- 広く導入できるDMHにも関心があるが、導入にあたっては、期待される効果とともに、提供実績も重視※3。



雇用主企業

事業概要



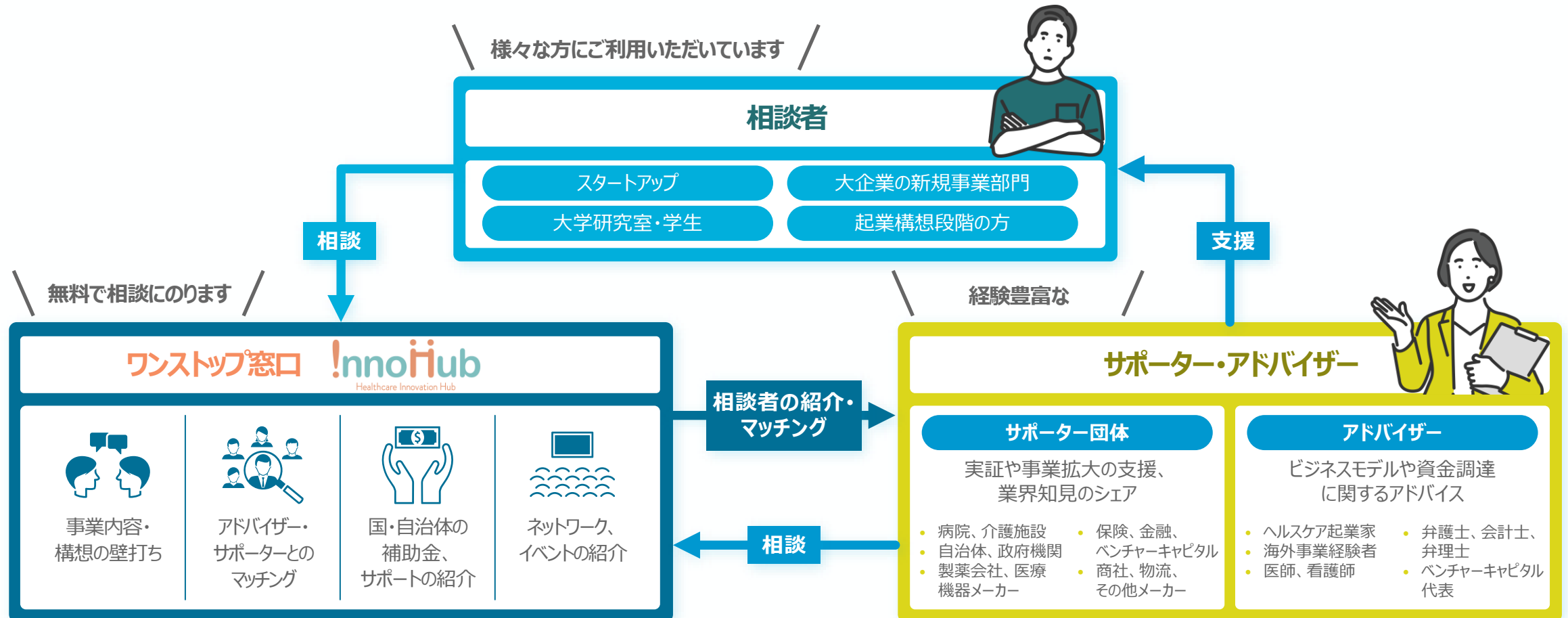
※5：企業規模は中小企業。中間団体経由での提供も検討可。

※2：健康・医療新産業協議会第8回健康投資WG 事務局説明資料
※3：職域の心の健康関連サービスの創出と活用に向けて一民間サービスの情報開示のあり方（2024年3月）（https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/teigen.pdf）
※4：サービス提供事業者 採択事業一覧：<https://www.seedplanning.co.jp/-/2025/dms/serviceprovider.html/>

□ ヘルスケアスタートアップ°支援

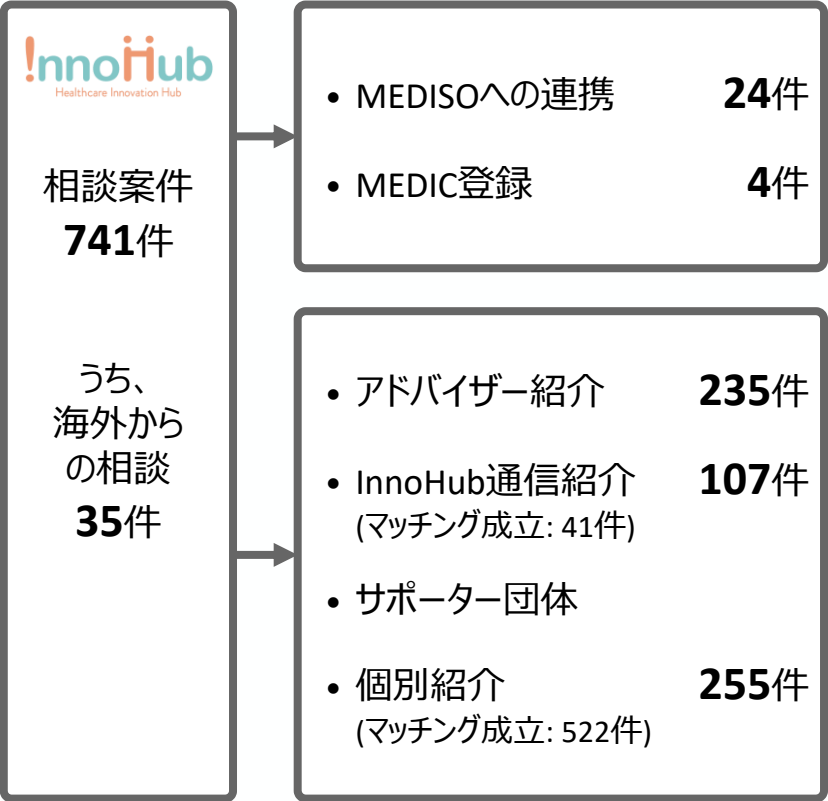
Healthcare Innovation Hub（通称：InnoHub/イノハブ）

- ヘルスケアスタートアップへの支援やイノベーションの創出・活性化を目的に、スタートアップに加えて、企業の新規事業部門など、イノベーションを必要とする多様な団体から幅広く相談を受付。
- ベンチャー企業等の支援者（イノハブアドバイザー）やベンチャー支援を行う同分野の事業会社等（サポーター団体）と連携し、国内外のネットワークを活用して、事業化相談やネットワーク形成を支援。
- 本事業により、ヘルスケア・ライフサイエンス分野のベンチャーエコシステムの構築を目指す。



(参考) InnoHubへの相談実績

InnoHubへの累積相談実績



※2025年3月末時点

InnoHubでの支援事例

株式会社シンクロアイズは、カメラとディスプレイを内蔵したスマートグラスを用いたITによる遠隔支援サービスを提供している。本機器の医療教育現場での活用可能性について、InnoHubアドバイザーである東京科学大学 山本氏に相談
東京科学大学（当時：東京医科歯科大学）の耳鼻咽喉科学、肝胆膵外科学、整形外科、救命救急センター、歯学教育システム評価学の5領域において、臨床教育現場における利用可能性・有用性を検討するための共同研究を行った。2023年1月時点で、当該機器20数台を2年間レンタルし多くの学内分野にて試使用中



出典: Vuzix資料、シンクロアイズは VuzixのM400を使用、写真はイメージ

関連イベントの開催

- InnoHubは関連団体と連携したイベントを開催しコミュニティ・ネットワークを拡大している。今年度第一弾として「女性の健康」にフォーカスを当てたイベントを（一社）Femtech Community Japanと連携して開催予定。

<https://femtechcommunityjapan1030.peatix.com/>

参加無料

会場 & オンライン開催



フェムテック導入の先へ

～ 女性の健康サービスを“成果”に変える ～

無料





水野 正明
名古屋大学大学院医学系研究科附属
健康医療ライフデザイン統合研究
教育センター（特任教授）



樋谷 建央
ReGACY Innovation
Group株式会社
執行役員



戸津 玲
グラクソ・スミスクライン
健康保険組合
常務理事



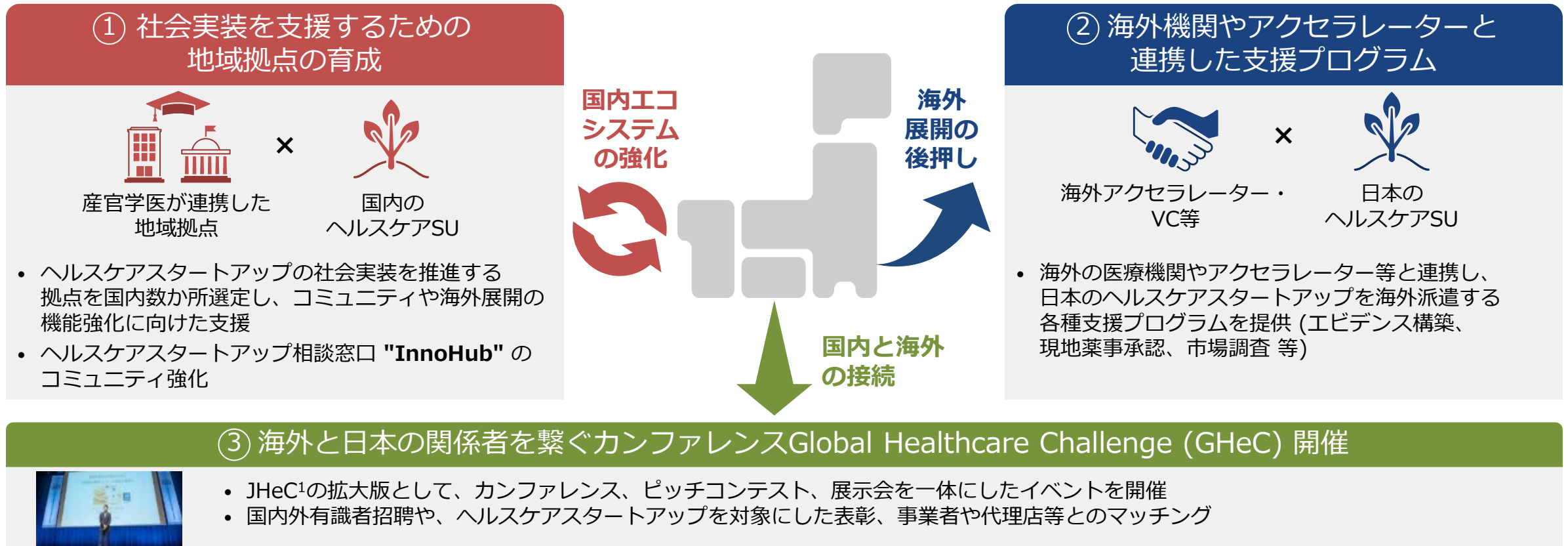
皆川 朋子
Femtech Community
Japan 代表理事

10月30日[木] 15:00-17:30

@Tokyo Innovation Base (TiB)
1階 スクエア1 & オンライン

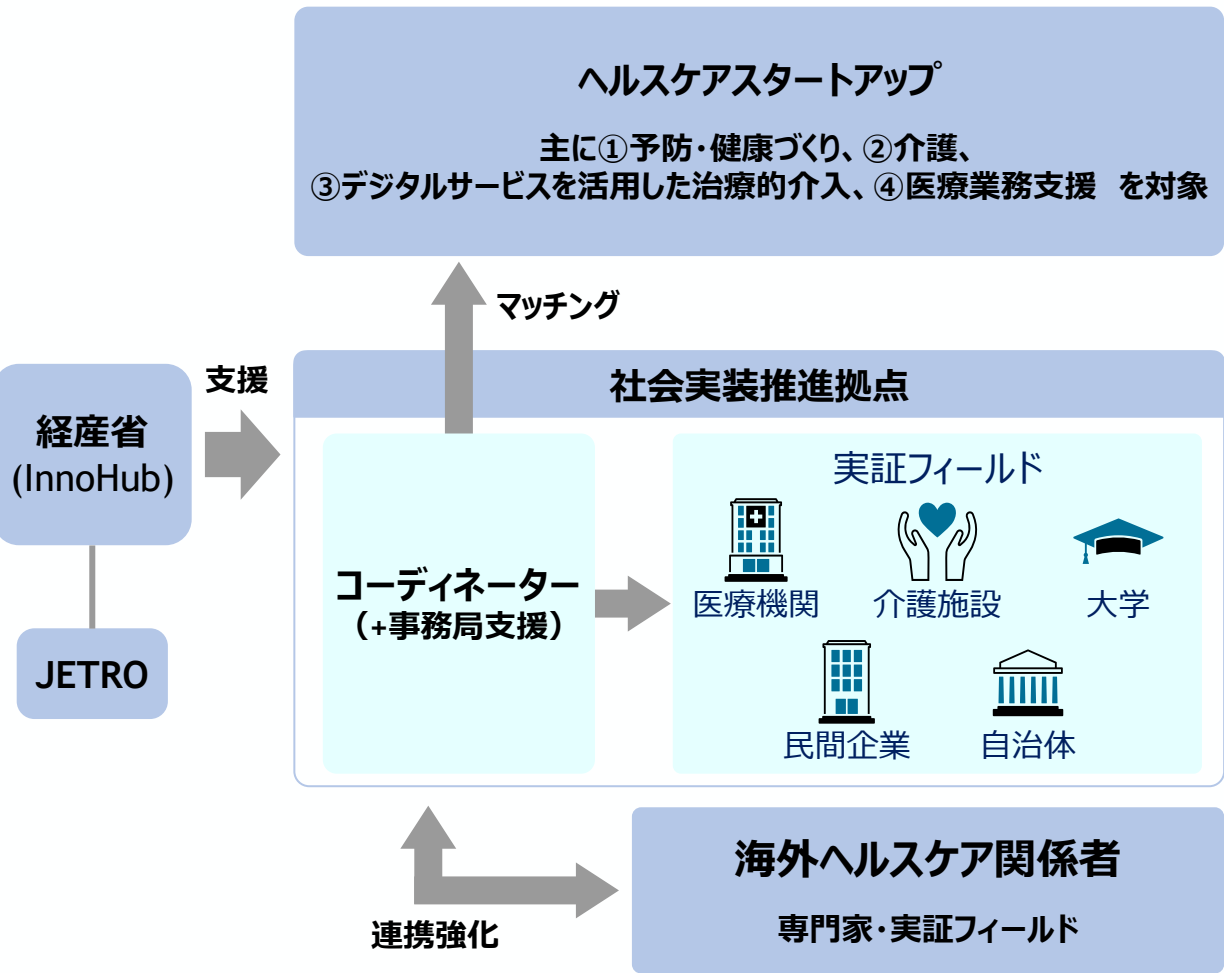
更なるヘルスケアスタートアップエコシステム構築に向けた経済産業省の取組

- ヘルスケアスタートアップはサービスの開発や実装において、エビデンス構築やデータ収集が困難、人材や実証フィールドの不足、国ごとに独自の規制や承認経路をもつ薬事制度への対応、等の課題に直面
- ① エビデンス構築・社会実装を支援するための地域拠点の整備、② 海外医療機関やアクセラレーター等と連携した支援プログラムの提供、③ 海外と日本の関係者を繋ぐカンファレンス開催を通して更なるエコシステムを構築する。



ヘルスケアスタートアップ社会実装推進拠点

- ヘルスケアスタートアップへのエビデンス構築、実証フィールドマッチング支援といった社会実装支援を重点的に実施する拠点として、愛知、仙台、九州の3拠点を選定。
- 拠点に対して①国内活動支援（拠点のコーディネーターの人件費、InnoHubネットワーク提供 等）、②海外活動支援（JETROを通じた支援等）等を実施。



	愛知県  東海国立大学機構 MAKE NEW STANDARDS.	仙台市  ReGACY Innovation Group.	九州  HAMIQ The organization to promote the Health-care And Medical device Industry in KIQ/yushu 九州ヘルスケア産業推進協議会
支援対象/領域	- 高齢化・少子化対策 - シード期～社会実装	- 地域医療、デジタル・AI - Seed～Series A	- 介護の機器、サービス - 製品・サービス企画～実証・検証～販路支援～海外展開
連携体制	- 自治体 - STATION Ai - 企業 (富士通、沢井製薬) 等	- 仙台市 - 東北大学 - 仙台市産業振興事業団 - 仙台スタートアップスタジオ	- 九州全域の自治体 - 大学 (九州大学、九州工業大学) - 医療機関等
特徴	- 東海地域におけるビッグデータ活用とエビデンス創出 - 全国70自治体が参加する医療・福祉統合ネットワークを活用 - STATION Aiを拠点とした起業支援と地域連携	- 医師会および地域医療機関と連携したガイドライン作成と実証 - 独自ネットワークでヘルスケアスタートアップをスカウト、支援 - ヘルスケア領域での累計900件超のマッチングイベント実績	11年の経験と数十社の実績を持つ「HAMIQ」の支援体制 200社以上の開発支援企業や実証施設ネットワーク - VCや自治体を通じた資金調達サポート

海外機関やアクセラレーターと連携した支援プログラム

- JETROでは、2020年度から起業家等を海外に派遣するプログラムとして、J-StarXを実施。中でも、2024年度からは、医療・ヘルスケアスタートアップの海外進出を強力支援するアクセラレーションプログラムである HealthTech Gatewayとして、下記の2プログラムの実施を開始。
- 目的としては、我が国のヘルステックスタートアップが以下を実現することである。
 - プログラムを通じて国ごとに異なる規制や市場参入に必要な知識習得・戦略策定を支援すること
 - 専門家による一歩踏み込んだアドバイスや現地医療機関・KOL・VC等との接続を得ること
 - 将来的な海外薬事承認取得に向けたエビデンス構築やサービス・プロダクトの向上をサポートすること

AI Medical in the US（米ミネソタ州）

- 米国ヘルスケア市場参入に向けた知識習得、ビジネスディベロップメント、コネクション形成を支援
- 基礎プログラムであるフェーズ1では、レクチャーにより米国ヘルスケア市場参入に向けた基礎知識のインプットを実施するとともに、米国最大級の患者データ・ネットワーク等を有するMayo Clinicを訪問し、ネットワーク機会や投資家とのディスカッション機会を提供
- フェーズ2では、Mayoと連携して医療データアクセスとAIモデル開発検証の機会を提供

プログラムの様子



参加企業（例）



General in APAC/ Europe（オーストラリア、オランダ）

- アジア太平洋地域の医療・ヘルスケアスタートアップのグローバル展開を支援するMedtech Actuator社（オーストラリア）の協力の下、以下のフェーズ1－3を実施
- ①集中講義（10-20社）：投資家向けの資料作成、ビジネス戦略立案・各種分析、海外の規制・治験 等
- ②メンタリング（5-10社）：各企業のニーズベースで専門家をマッチング
- ③シドニーとアムステルダムのどちらかに渡航し、ネットワーキング&資金調達支援（5-10社）

プログラムの様子



参加企業（例）



Global Healthcare Challenge (GHeC)の開催

- 我が国のヘルスケアスタートアップエコシステムのグローバルとの接点強化を目的に、大阪・関西万博における「健康とウェルビーイング」ウィークの機会を捉え、GHeCを開催（2025年6月25,26日、於グランドプリンスホテル大阪ベイ）。
- 世界各国から著名なスピーカー（キャピタリスト、大企業、アカデミア等の約70名）及び観客（約400名）を招き入れ、パネルディスカッションやキーノートスピーチ等のカンファレンスとビジネスコンテストを実施。



カンファレンス（パネルディスカッション・ネットワーキングパーティ等）

- ✓ 世界各国からスピーカーを招き、8つのパネルディスカッション（38人のモデレーター・パネリストが参加）、9つのキーノートスピーチ（デンマーク保健大臣等）、その他多岐にわたるファイアーサイドチャットやビデオメッセージ等のコンテンツを実施。
- ✓ また、両日それぞれネットワーキングパーティーを実施するとともに、各国のキーパーソンと日本企業とのビジネスマッチングを目的とした面談を100件以上実施し、各国とのコネクションを強化。



ビジネスコンテスト

- ✓ 世界各国から350を超えるヘルステックスタートアップからの応募があり、ファイナリスト20社が当日登壇。以下の3社が受賞。
- 経済産業大臣賞
AI Medical Service Inc.（日本、AI内視鏡診断支援）
- JETRO賞
Neurosoft Bioelectronics（スイス、神経疾患治療）
- 大阪府知事賞
syd™ Life AI（英国、AIによるパーソナルヘルス支援）



ヘルスケアスタートアップと事業会社間の連携・出資・買収のための手引書

- ヘルスケアサービスの社会実装に向けて、スタートアップが適切に成長・エグジットするためには、事業会社との連携が重要であり、スタートアップと事業会社間の連携・出資・買収を促進するための手引書を2025年3月に策定・公表。
- 本手引書は、ヘルスケアスタートアップ及び当該スタートアップとの連携・出資・買収を検討する事業会社を想定読者とし、ヘルスケア業界に関する基本的な市場環境や、ビジネス領域ごとの課題について、グローバルな視点も交えてまとめています



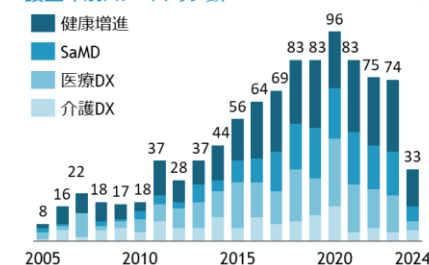
手引書の主な内容

- ヘルスケアスタートアップの特徴・課題の整理
▶市場参入状況やヘルスケアスタートアップが抱える特有の悩みを整理
- ヘルスケアスタートアップの資金調達状況の分析
▶日本とグローバルの資金調達環境等を分析しつつ、潮流を読み解く
- ヘルスケアスタートアップのエグジット準備に係るチェックリスト
▶SUがエグジットを成功させるために確認・検討すべき事項を整理
- 出資・買収に係るチェックリスト
▶SUへの出資・買収を進める際の確認すべき事項や視点を整理
- ビジネス領域・ステージ特有の課題
▶ヘルスケアスタートアップが成長戦略を描く際の課題と打ち手を整理

本手引書のダウンロードは
こちらから

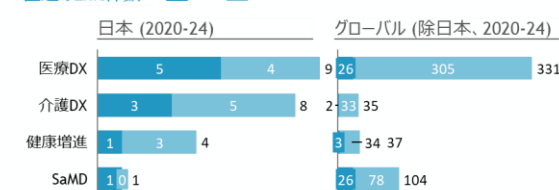


設立年別スタートアップ数



Note: 2024年は2024年11月時点の数値
Source: スピーダ スタートアップ情報リサーチ、ISSP(2021)、Statista(2023年第3四半期)

直近のExit件数



Source: スピーダ スタートアップ情報リサーチ、Pitchbook

ご清聴、ありがとうございました。